

Critical Appraisal Worksheet - ⑨

予後 Prognosis		
--------------	--	--

JAMA 医学文献ユーザーズガイド 18 章を参照

このシートは「JAMA 医学文献ユーザーズガイド第 2 版」を利用し EBM を理解するための補助ツールです。本シートに記載されている項目は、書籍「JAMA 医学文献ユーザーズガイド」及び、オンライン JAMAevidence (2011 年 1 月時点) に発表されているものです。表内の青色で示すイタリック表示部は、JAMAevidence や McMaster 大学の EBM working group (Guyatt 教授より提供, 2008) のワークシートを参考としているため、書籍内容と異なっている場合があります。本シートは自由に利用してかまいませんが、間違いや改善点がありましたらご連絡ください(相原: ezy01757@nifty.ne.jp)。

引用	
----	--

I 結果は妥当か	
1	患者サンプルは代表的だったか <ul style="list-style-type: none"> • 懸案の健康状態を定義するための客観的基準があるか • 患者らは、紹介、施設、専門機関などを経由して研究に組み込まれているか • 研究に組み込まれた患者と除外された患者が明確に説明されているか
2	患者らの予後リスクは十分に均質だったか <ul style="list-style-type: none"> • 予後の異なる重要なサブグループが見落とされていないか • 患者は病気の経過で全て似ていたか
3	追跡は十分に完了しているか <ul style="list-style-type: none"> • 研究終了後に重要なアウトカムが発生する可能性があるか • 著しい追跡からの脱落があったか
4	アウトカム基準は客観的かつバイアスがな いか <ul style="list-style-type: none"> • アウトカム基準は、著しい主観的判断を要することなく、容易に測定可能だったか • アウトカムを判断する担当者に、懸案の予後因子がわからないようになっていたか

II 結果は何か	
1	<p>時間とともにアウトカムはどれくらい起こりやすいか</p> <ul style="list-style-type: none"> 異なる時期でのイベント発生率はどうか 時期によってイベント発生率が異なる場合は、結果が生存曲線を用いて提示されているか

III 結果を患者のケアにどのように適用できるか	
1	<p>研究対象患者とその管理は自身が診察している患者と似ていたか</p> <ul style="list-style-type: none"> 疾患の治療は研究におけるサブグループ全般にわたって同じく適用されたか 疾患の治療は時間が経つにつれて同じく適用されたか
2	<p>追跡期間は十分長期間だったか</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者は、あなたの診察で懸案となっているアウトカムを検出できるだけの十分な期間にわたって追跡されたか
3	<p>自身が診察する患者の管理のために結果を使用できるか</p> <ul style="list-style-type: none"> 予後因子がアウトカムイベントに与える影響によって、治療閾値超えが発生するか

まとめ

コメント: